News スクランブル 2013

特集

5市のゆるきゃらが勢ぞろい！

といってもこれはぬいぐるみの人形たち。今年２月に東久留米市で開催された「たまとくとご当地グルメフェスティバルinくるめ」で抽選会の賞品として作られたもの。小平市役所1階資料コーナー棚の上に仲良く並んでいます。

（左から東村山のしょうちゃん、西東京のいこいーな、小平のぶるべー、清瀬のニンニンくん、東久留米のるるめちゃん）

日本一丸ポストが半纏でおめかし

小平駅南口ルネこだいら前にある日本一の丸ポストが、10月の市民まつりに合わせて半纏を着用し、道行く人々の目を引きました。「日本一丸ポスト愛好会」の会員が作ったもので、裏側にも丸ポストのロゴが入ったこだわりの半纏。ずん胴の丸ポストに腕をつけるのに苦労したそうです。

ダイハツミゼット、いまだ健在、活躍中

11月9日、東久留米の市民みんなのまつりで出合ったダイハツミゼット。隣に置かれた野菜の宝船にも負けず劣らずの人気で、「かわいい」と一緒に記念写真を撮る人も。市内で農業を営む山下文夫さんが持ち主で「つい先日車検を終えたばかり、現役で働いていますよ」と。半世紀近くにわたり大切に使われているミゼットに、山下さんの車に対する並々ならぬこだわりが感じられました。

これを読めば、小平の〝今〟がわかる「やっぱりこだいらが好き。Vol.2」発刊記念交流会を開催

小平市中央公民館が昨年に続いて募集した、「こだいらふるさと冊子編集プロジェクト」メンバー9名による2冊目の冊子が完成。11月16日には中央公民館ホールで、発刊記念の交流会が開かれました。

今回の冊子コンセプトは「むすんで つないで こだいら」。目次には取材した方たち、それぞれの手がクローズアップされ、文字通りむすんで、つないで。小平の昔を語り、今につながる、多彩な人々や団体が登場。地道な活動を続ける、グリーンロードの保全や地域福祉の団体、世界的建築家、妹島和世さん設計による今話題の仲町公民館・図書館の展望から新小平音頭の振付まで。小平の魅力満載の苦心作。これまで知らなかった小平を発見できます。

初対面同士の受講者が編集会議を重ね、企画し、取材、そしてパソコンで編集し制作まで3カ月余りで仕上げました。メンバーは「取材は楽しかったけれど、編集は苦しかった」「冊子作りの奥深さを体験して、小平がますます好きになった」など、貴重な経験となったようです。

今回取材した人々やこれまでの協力者のつながりをはかりたいと、交流会を開催。取材風景や、編集会議など冊子完成までのドキュメント映像の上映、シャンソン、三味線、新こだいら音頭の踊りからギターデュオまで、賑やかなパフォーマンス披露で盛り上がり、また新たな小平市民同士の出会いが生まれました。

「やっぱりこだいらが好き」というメンバーと公民館職員の萩元さん、川口さん（前）

A4判　54頁　小平市内の公民館で無料配布中
(問) 042 (341) 0861
中央公民館（川口・萩元）

むすんで つないで こだいら交流会

悩みや思いを誰かと分かち合えるがんカフェ

気軽に患者さんの声を聞きたいと信愛病院のスタッフが始めたがんカフェ。カフェの名通り、ティーサービス付で和やかな雰囲気です。

和やかながんカフェ

がんカフェは、がん体験者、その家族、医療・介護関係者、がんで家族の方を亡くした遺族、がんを知りたい人が自由に参加できる会です。

特定の健康食品・物品販売や宗教勧誘などとは無縁。

参加者の要望に応じて、ミニ講演（11月16日は「緩和ケアチームとは」という看護師さんのお話でした）をするほかは、参加者が自由に自分の悩みや思いを話したり、自分の体験談を語る時間を大切にしています。

心の中にある悩みや痛みは、話すことでほんの少し軽くなることがあるでしょう。体験を話すことで悩みに対するヒントとなることもあるでしょう。代表の音楽療法士・北川美歩さんは、場の設定だけして後は参加者の語り合いに任せています。

「この会の温かい雰囲気がよくて、1時間半かけてでも来ます」「ここでは学べることが多い」と参加者の声。会に臨席させてもらって納得です。

代表の北川美歩さん

保谷こもれびホールと西東京フィルが設立15周年記念コンサートを開催　1/19㊐

20万都市には珍しくオーケストラが3団体あり、他にも弦楽アンサンブル、吹奏楽など音楽文化の華さく西東京市。15年前に保谷こもれびホールが設立され、それと同時に西東京フィルハーモニーオーケストラが結成され、こもれびホールを拠点として活動してきました。また放送メディアのFM西東京も開局15周年。この15年間にホール、文化団体、情報メディアが一体となって西東京の地域文化向上に貢献してきた訳です。

その15周年記念の特別演奏会が保谷こもれびホールと西東京フィルとのコラボレーションで開催されます。西東京フィルを中心として市内の音楽団体が集結。指揮は和田一樹さん。ドラマ「のだめカンタービレ」での指揮指導やCM「ジャイアントコーン」で活躍中の方です。

「今年の吹奏楽コンクール都大会で銀賞受賞の碧山小学校吹奏楽部の生徒たちが受賞曲を披露してくれます。吹奏楽、弦楽アンサンブル、大オーケストラという、いろいろな音楽を楽しんでください」と西田代表。

第3部では、M・ムソルグスキー組曲「展覧会の絵」が演奏されます。3月末まで田無駅前アスタ3階で「こもれびホール15周年のあゆみ」パネル展を開催中。

1月19日　14時開演（13時30分開場）
保谷こもれびホールメインホール
入場無料（要整理券）
※整理券はこもれびホール窓口または
　書店等市内6か所で
（問）042（421）2323
保谷こもれびホール、または
☎　080（1164）5253　西田

「地蔵まつり」で国宝　正福寺地蔵堂の開帳

毎年11月3日に開催される東村山市正福寺の「地蔵まつり」では、国宝の地蔵堂が開帳されます。正福寺地蔵堂は、都内で唯一の国宝木造建築物。鎌倉の円覚寺舎利殿とともに禅宗様建築の代表的遺構です。北条時宗が建立したと伝えられていましたが、昭和9年改修の際発見された墨書銘により、室町時代の応永14年（1407年）の建立と推定されています。後方にある本堂は幾度かの火災にあったものの、地蔵堂は難を免れ6百年前の姿を留めています。上層屋根は入母屋造りの柿葺（こけらぶ）きで、反り上がった屋根が禅宗様建築の特色。秋空に向かってしゃきっとした様は、清々しくて美しい。花頭窓（かとうまど）、弓欄間などの意匠も当時の禅宗様建築を伝えています。

上）国宝　正福寺地蔵堂
下）浦安の舞

地蔵菩薩像（東村山市指定有形文化財）

堂内にはご本尊の地蔵菩薩像（東村山市指定有形文化財）が須弥壇に安置され、その両脇の棚には奉納された、夥しい数の木彫りの小地蔵が。これは地蔵信仰が盛んな江戸時代に、借り受けた小地蔵に祈願し、成就したら別にもう一体を奉納したという。地元はもちろん八王子辺りからも奉納に訪れたそうです。それにちなみ、地元では正福寺千体地蔵堂と呼ばれています。現在も厄除け木彫り小地蔵として、市内福祉施設で手づくりしたものが、この日に有料頒布され、多くの人々が求めていました。

境内にある八坂神社仮社前の特設舞台では、「雅楽 浦安の舞」（東村山市無形民俗文化財）が午前と午後の2回公開され、神社へ奉納する少女たちの舞に観客は魅了されました。門前では手打ちうどんや焼きだんごなどの東村山名物店が並び、縁日の風情。地蔵堂の外観はいつでも見学できます。

◆東村山市野口町4－6
東村山駅西口から徒歩10分

小平市民まつりへ参加した、石巻の人々に聞く

10月20日の小平市民まつりに石巻市から参加した方々が、手作り品や特産品を販売。石巻市は3・11の大震災後、災害ボランティアネットワーク「チーム小平」が、いち早く支援に入ったところ。以来2年半にわたりさまざまな支援活動を続け、石巻の人々との強い絆が生まれました。降りしきる雨の市民まつりで出会った、石巻の素晴らしい人々…。

石巻でのボランティア活動をコーディネートする一般社団法人BIG UP（びがっぷ）石巻代表の原田豊さんは、国分寺市で車関連の自営業をうち棄て石巻へ移住した方。それを突き動かしたものは、あの惨状。「やるっきゃないと決心した」とか。現在は石巻に「街の駅」と呼ぶ在宅被災者のためのコミュニティスペース作りや子ども支援活動、各地での石巻物産展開催など、リーダーとして精力的な活動を続けています。

原田豊さん

「橋本ごはん」として一躍有名になった橋本信子さん。自身も被災者でありながら、石巻を訪れるボランティアへの感謝の気持ちから、半年間毎日昼食を作り続けた方。多いときは1日50人分、平均でも30人分の食事を自費で賄いました。ボランティアに元気を与える美味しい料理が評判を呼び、そのレシピ本が出版されるほどに。笑顔を絶やさない橋本さん、とてもステキな方でした。

あの日の極限の体験を赤裸々に話してくださったのは中里美幸さん。海岸から700メートル離れた自宅から津波で流された中里さんと21歳の娘さんは、雨どいにつかまり、電信柱に足をかけ、辛うじて自宅の屋根によじのぼった。3日目の朝にようやく20m先の実家に戻れたが、そこで見つけたものは4歳の息子と実母が手をつないだまま亡くなっている姿だった。体が不自由だった祖母も犠牲になった。遺体安置所の体育館で、中里さんはパニック状態に。父親が声をあげて泣くのを初めて見た。7日目でようやく火葬に。克明な記憶は震災の4日目から日記をつけていたからという。

2年半以上経っても津波の映像は見られない。しかし今は「振り返っても仕方がない。今日笑って生きること」をモットーに、手仕事に励む中里さん。淡々とした話しぶりから、悲しみを越えようとする強さが感じられました。

『石巻ボランティアハウスの橋本ごはん』と橋本さん

中里美幸さん（右）と娘さん

東久留米市に女性と子どものための「アルテミス ウイメンズ ホスピタル」が2/1㊏オープン

清瀬市にあるきよせの森総合病院を運営する医療法人社団レニア会は、東久留米市に建設中の「アルテミス ウイメンズ ホスピタル」を2014年2月1日にオープンします。産科・婦人科・小児科・女性内科・乳腺外科・消化器内科からなり、地域の女性と子どものための医療の充実を目指す病院です。ベッド数60、うち46ベッドが個室、LDRを6室完備し、入院患者のプライバシーと快適な療養生活の実現が図られています。

病院名は女性と子どもの守護神といわれるギリシャ神話の女神アルテミスにちなんで命名。現在のきよせの森総合病院は眼科と糖尿病内科を中心とした医療を提供します。同会理事長でロシア人の武谷ビニロピさんが62年前、清瀬の地に小さな診療所を開院。以来、地域医療へ多大な貢献をしてきた同病院に、更なる期待が寄せられています。レストランより美味しいといわれるシェフの病院食が、富士山が見える4階カフェテリアでいただけるそうです。